



第1回 日本版NCAA設立準備委員会作業部会

平成30年7月24日(火)

11:00～12:00

議事(1)

本会議の全体像・運営規則等、作業の進め方について

本会議の全体像

本会議では、テーマ別チームの調査、検討結果を基にして、準備委員会に諮る素案の検討等を行います。



	役割	開催頻度	構成員
設立準備委員会	設立準備委員会 新組織の方針決定、作業部会から上程される議題の決議等	設立までに3回程度	参加表明をした大学・競技団体等
作業部会	作業部会 準備委員会に諮る素案の検討等	月1回程度	参加を希望した大学・競技団体等、有識者
グループ会議	グループ会議 各テーマで議論されている事項についての議論及び意見交換等	必要に応じ	同上
テーマ別チーム	テーマ別チーム 作業部会に諮る素案の作成及び検討、各種調査等	メール等により随時	同上

日本版NCAA設立準備委員会運営規則(案)

1 趣旨

大学スポーツの振興に係る関係者全体の意識の醸成を図るとともに、大学スポーツの発展を戦略的に推進する大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA(仮称))の創設に向けて、具体的な準備を進めるため、設立準備委員会を開催する。

2 構成員

以下(1)から(3)を満たす団体

(1)以下の①又は②の団体であること

① 国立大学、公立大学又は私立大学

② 公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会又は公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に加盟若しくは登録する競技(準加盟又は承認に相当する競技を含む。)の学生競技団体(地域を代表するものは除く。)若しくは中央競技団体

(2)日本版NCAA(仮称)の設立趣意書(案)の趣旨に賛同し、スポーツ庁並びに参加団体と連携及び協働して日本版NCAA(仮称)の設立に向けた準備に取り組むことができること

(3)平成30年12月28日(当日消印有効)までに設立準備委員会への参加を表明すること

3 検討事項

○ 定款及び趣意書の内容

○ 事業計画の作成(学業充実、安全安心・医科学、事業・マーケティングの内容を含む)

○ 賛助会員等の募集

○ 大学横断的かつ競技横断的なプラットフォームの形成に当たり、共有化するべき情報の検討

○ 安全対策のガイドライン策定等に当たっての大学スポーツの実態調査 等

4 方法

○ 準備委員会における決議は、出席者過半数の賛成により行う。

○ 具体的な検討及び作業を行うため、準備委員会の下に作業部会を置くものとする。

5 その他

○ 準備委員会の事務局は、スポーツ庁が行う。

○ 会議、配付資料及び議事要旨は原則として公開とする。ただし、特別の事情による場合は、この限りではない。

○ この決定に定めるもののほか、準備委員会の運営に関する事項は、必要に応じ準備委員会に諮って定める。

日本版NCAA設立準備委員会作業部会運営規則(案)

1 趣旨

大学スポーツの振興に係る関係者全体の意識の醸成を図るとともに、大学スポーツの発展を戦略的に推進する大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版NCAA(仮称))の創設に向けて、日本版NCAA設立準備委員会で議論する素案の検討等を行うため、作業部会を開催する。

2 構成員

別紙のとおり

なお、構成員の事情等により変更することはある。

3 検討事項

- 学生アスリートの学業の充実に係る事項
- 大学スポーツにおける安全安心対策・医科学に係る事項
- 日本版NCAA(仮称)の事業・マーケティングに係る事項 等

4 その他

- 作業部会の事務局は、スポーツ庁が行う。
- 会議は原則として非公開、配付資料及び議事要旨は原則として公開とする。ただし、特別の事情による場合は、この限りではない。
- この決定に定めるもののほか、作業部会の運営に関する事項は、必要に応じ準備委員会に諮って定める。

日本版NCAA設立準備委員会作業部会運営規則(案)別紙(1/2)

日本版NCAA設立準備委員会作業部会 名簿

<テーマ1 入学前からの動機付け>

- 明石 良 宮崎大学副学長(機能強化推進担当)
飯田 直子 愛知学院大学学生課
○伊坂 忠夫 立命館大学スポーツ健康科学部学部長
上田 滋夢 追手門学院大学社会学部教授

<テーマ2 学習機会確保>

- 植野 恵子 全日本学生テニス連盟事務局長
○小林 勝法 全国大学体育連合専務理事
杉浦 善次郎 新潟経営大学経営情報学部スポーツマネジメント学科
三好 雅之 武庫川女子スポーツセンター
涌井 忠昭 関西大学学生センター副所長(人間健康学部教授)

<テーマ3 成績管理・対策、さらなる動機付け>

- 縣 右門 日本薬科大学医療ビジネス薬科学科講師
下田 正二郎 山梨学院大学カレッジスポーツセンター長
○友添 秀則 早稲田大学スポーツ科学学術院
長谷川 恒平 青山学院大学学生生活部スポーツ支援課
松本 直樹 関東学院大学スポーツ振興課

<テーマ4 キャリア支援>

- 嶋崎 雅規 国際武道大学体育学部体育学科教授
杉浦 克己 立教大学コミュニティ福祉学部教授
福田 一儀 至誠館大学副理事長、ライフデザイン学科教授
○藤本 淳也 大阪体育大学体育学部教授

○主査:作業部会において発表を行う者。
ただし、主査が不在の場合は、主査が指名する者(作業部会員以外の
指名も可)が発表を行うこととする。

<テーマ5 事故情報の集約化>

- 大河原 一憲 電気通信大学情報理工学研究科情報学専攻
太田 あや子 武蔵丘短期大学健康マネジメント専攻教授
○川原 貴 日本臨床スポーツ医学会理事長(有識者)
篠原 純司 九州共立大学学長特別補佐・スポーツ学部教授
武富 修治 東京大学医学部附属病院整形外科講師
藤谷 博人 聖マリアンナ医科大学・スポーツ医学講座教授

<テーマ6 共通ルールの設定>

- 伊東 克 帝京大学スポーツ医科学センター
稲葉 慎太郎 天理大学体育学部体育学科
中田 研 大阪大学大学院医学系研究科・教授
○三宅 仁 平成国際大学スポーツ健康学部准教授、
全日本学生柔道連盟理事(有識者)
渡辺 一郎 日本ラグビーフットボール協会

<テーマ7 ガバナンス体制の構築、ハラスメントや暴力等に関する 相談・対応体制の構築>

- 阿保 雅行 日本学生陸上競技連合
杉山 英一 朝日大学学事部学事第一部長
田浦 定一 清和大学学生生活課
田中 秀治 国土舘大学救急システム研究科研究科長
○戸田 芳雄 日本安全教育学会理事
山口 理恵子 城西大学経営学部教授

<テーマ8 指導者研修>

- 乾 真寛 福岡大学スポーツ科学部・教授
○佐藤 壮二郎 筑波大学アスレチックデパートメントスポーツアドミニストレーター
谷釜 尋徳 東洋大学教授
松井 健 追手門学院大学学生部長・課外活動支援センター長
三浦 哲治 静岡産業大学スポーツ振興部スポーツ・アドミニストレーター
山本 秀人 日本福祉大学副学長

(敬称、法人名略)

日本版NCAA設立準備委員会作業部会運営規則(案)別紙(2/2)

<テーマ9 大会レギュレーションの整備>

- 阿部 靖彦 東北福祉大学理事・総務部部长
○池田 純 スポーツ庁参与(有識者)
泉 正文 日本スポーツ協会専務理事(有識者)
岩尾 光平 日本スポーツチャンバラ学生連盟常任理事
田中 博史 大東文化大学スポーツ・健康科学部
西海 幸頼 新潟医療福祉大学スポーツ振興室

<テーマ10 個別データの管理・活用>

- 岸 郁子 弁護士(有識者)
○境田 正樹 東京大学理事、弁護士、
日本バスケットボール協会・Bリーグ理事
内藤 雅之 全日本大学野球連盟常務理事
永富 良一 東北大学医工学研究科教授
矢野 喬子 帝京平成大学女子サッカー一部監督

<テーマ11 シェアードサービスの提供>

- 天野 圭二 星城大学経営学部教授
○小林 至 江戸川大学社会学部経営社会学科教授
西島 壮 首都大学東京大学教育センター

<テーマ12 大学SA※支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備>

- 荒木 初廣 びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ開発・支援センター事務部長
金田 竜成 鹿屋体育大学スポーツアドミニストレーター
○佐野 昌行 日本体育大学アスレティックデパートメント長補佐、
スポーツ・アドミニストレーター、スポーツマネジメント学部准教授
徳吉 剛 長崎国際大学地域連携室
斗澤 元希 札幌国際大学スポーツ人間学部教授
橋詰 謙 大阪大学大学院医学系研究科・准教授

<テーマ13 広報戦略の策定・展開>

- 小栗 優貴 中京大学スポーツ振興課主任・スポーツアドミニストレーター
○尾崎 幹男 桜美林大学スポーツ推進センター部長
菊地 詩乃 関東学生体操連盟・全日本学生体操連盟

<テーマ14 スポンサープログラム及び賛助制度の策定>

- 池田 敦司 仙台大学体育学部教授、IR部部长
吉村 雅文 順天堂大学スポーツアドミニストレーター

<テーマ15 組織整備>

- 飯本 雄二 至学館大学副学長
○木藤 友規 スポーツ庁参与(有識者)
櫻井 友 全日本大学サッカー連盟
新井野 洋一 愛知大学地域政策学部健康・スポーツコース

○主査:作業部会において発表を行う者。
ただし、主査が不在の場合は、主査が指名する者(作業部会員以外の
指名も可)が発表を行うこととする。

(敬称、法人名略)

※SA=スポーツ・アドミニストレーターの略称

作業部会の検討テーマ(学業充実分野)

学業充実分野では、入学前から在学中、卒業後のキャリア支援まで一貫通貫で整備すべき内容を検討していきます。

No.	テーマ名	検討内容
1	入学前からの動機付け	• 優良事例調査などを通じて、入学前から学業に注力する動機付けを検討
2	学習機会確保	• 試合日程や会場の調整方法の現況調査等を通じて、学業と競技の両立方法を検討
3	成績管理・対策、さらなる動機付け	• 学業と競技の両立のため、学生アスリートの成績調査などを通じて、学業基準の導入是非などを検討
4	キャリア支援	• 学生アスリートの就職支援体制の調査などを通じて、どのような就職支援を行っていくべきか支援プログラムなどを検討

作業部会の検討テーマ(安全安心・医科学分野)

安全安心・医科学分野では、事故情報の集約や安全ガイドラインの整備からガバナンス体制構築、指導者研修など、幅広い範囲に取り組んでいきます。

No.	テーマ名	検討内容
5	事故情報の集約化	<ul style="list-style-type: none">報告対象とすべき事故情報の範囲や報告内容、報告の経路を検討保険の現状を調査・分析し、加入状況の改善や補償範囲の充実のための対策や制度を検討
6	共通ルールの設定	<ul style="list-style-type: none">公官庁やスポーツ・競技団体で作成しているガイドラインを収集・分析し、競技横断的なガイドラインとして作成すべき内容を検討
7	ガバナンス体制の構築、ハラスメントや暴力等に関する相談・対応体制の構築	<ul style="list-style-type: none">日本版NCAAとして設置する相談窓口の運営体制や、各大学や学連の既存の窓口との連携や問題解決プロセス等を検討コンプライアンスに関するガイドラインを広く収集・分析し、日本版NCAAに加盟する団体が遵守すべき内容を検討
8	指導者研修	<ul style="list-style-type: none">日本版NCAAの加盟者を対象とした指導者研修のプログラム、および安全対策を軸とした情報収集・情報共有の仕組みづくりを検討

作業部会の検討テーマ(事業・マーケティング分野)

事業・マーケティング分野では、法人設立に向けた組織整備を進めつつ、日本版NCAAが事業として収益を上げられるようプラットフォームや広報・スポンサープログラムの策定を検討していきます。

No.	テーマ名	検討内容
9	大会レギュレーションの整備	<ul style="list-style-type: none">現在の大会開催状況の調査などを通じて、大学スポーツを活性化に向けて、競技横断的の大学対抗戦等を実施するためにはどのような調整や規定等の整備が必要となるかを検討
10	個別データの管理・活用	<ul style="list-style-type: none">個人情報管理体制や各種権利等の管理状況の調査を通じて、データベースによる情報一元管理やデータ・権利の活用方法等を検討
11	シェアードサービスの提供	<ul style="list-style-type: none">映像配信プラットフォームやチケット・グッズ販売サイトの整備に必要な要件等を検討
12	大学SA支援、マーケティング・会計ルールに関するガイドライン整備	<ul style="list-style-type: none">各大学の現況調査等を通じて、スポーツ・アドミニストレーターを有効に機能させる方法やマーケティング・会計のあるべき姿を検討
13	広報戦略の策定・展開	<ul style="list-style-type: none">日本版NCAAの情報発信に向けて、ホームページの整備やロゴの選定、広報戦略を検討
14	スポンサープログラム及び賛助制度の策定	<ul style="list-style-type: none">スポンサーや賛助会員の獲得に向けた、プログラム策定や候補先を検討
15	組織整備	<ul style="list-style-type: none">平成30年度中に法人を設立するために、組織体制や定款等の必須項目の内容を検討

議事(2)

各主査からの方針説明

学業充実 テーマ①

入学前からの動機付け

追手門学院大学 社会学部 教授
上田 滋夢 氏(主査代理)

学業①入学前からの動機づけ

第1回目準備委員会（7/24）：作業部会発足

作業部会 7月：目的の検討

仮) 入学前から学生、学生アスリートとしての意識づけと、動機づけを行う。

8月：内容の事例調査（先行大学の事例調査から「入学前動機づけ」の内容の抽出）

9月：内容の検討（事例調査から内容を分類、検討する）

大学の理解、各大学の理念の理解、大学での学びとは？、学生生活（目標設定、タイムマネジメント、キャリアプラン、学生アスリートとは？、学生アスリートの義務と権利、スポーツの社会的理解、スポーツの科学的理解など

10月：内容の提示案作成（課題：先行大学の形態の調査）

第2回目準備委員会（11月～12月）：目的と「入学前からの動機づけ」内容の提示

作業部会11月：モデル形態の検討（10月部会以降の調査を基に）

形態例1）1日セミナー、定期的セミナー、宿泊研修セミナー

形態例2）セミナー型、室内ワークショップ型、屋外ワークアウト型、インテグレート型など

12月：モデル形態の提示案作製と日本版NCAAの入学前教育プログラム素案作成

1月：最終提案作成（日本版NCAAの入学前教育プログラム案）

第3回目準備委員会（2月）：H30年度日本版NCAAの入学前教育最終プログラム案の提案

最終目標：日本版NCAAの入学前教育プログラムを策定し各大学へ実施を推奨

学業充実 テーマ②

学習機会確保

全国大学体育連合 専務理事
小林 勝法 氏

学業充実②学修機会確保

会場が確保できない。← 学連の資金不足・人材不足
会場設営に時間を要する競技もある。
体育会学生の欠席を大学が黙認している場合がある。

問題：公式戦の平日開催等によって学修機会が奪われている。

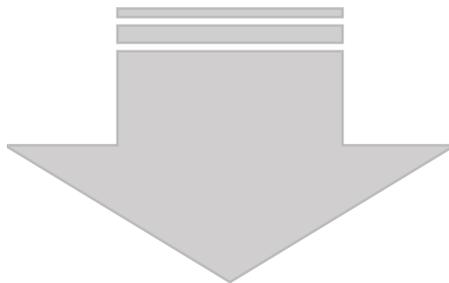
学生：
授業に出席できない。

学連：
不参加の大学も

一般学生・卒業生・地域住民：
応援に行けない。

調査（現状把握、意向調査）

- ・加盟競技連盟の試合日程と意思決定プロセス
- ・学連が行っている学修支援、キャリア支援



検討課題

- ・開催時期
- ・ホーム&アウェイ
- ・開催曜日の統一（cf.BUCS）
- ・試合日程の一元管理・調整

目標：学業とスポーツ、人格がともに優秀な学生を育成する。

学業に支障なく公式戦を開催し、一般学生や卒業生、
地域住民などの多数が応援に訪れる。

学業充実 テーマ③
成績管理・対策、さらなる動機付け

早稲田大学 スポーツ科学学術院
友添 秀則 氏

学産官連携協議会学業充実ワーキンググループの議論の概要

← 短期 → 長期 →

	学生の属性	課題	日本版NCAAの具体的取組		
入学前	一般入試学生				
	推薦入試学生 →	スポーツに重点を置きさえすれば進学できるという風潮を是正する必要がある	高校や高体連に対して学業とスポーツの両立の重要性を発信したり、意識合わせ	推薦で早期に合格した者に対して学業プログラムを提供	入学前の学力確認の徹底 *入学年で成績措置は行わず、大学1年時の成績を加味して2年目以降での措置の実施を検討する *文科省で大学入試に関する新たなルールの設定(平成32年度から適用予定)
在学时	学業・競技への意識は高いが、スポーツ活動で学業の機会が確保できない学生	<ul style="list-style-type: none"> 大会や練習日程の調整 指導者の理解をどう創るか 	授業との重複を避けるための試合日程の調整や会場の確保の支援	共通eラーニングプラットフォームの整備や単位化	土日開催のための施設整備を促進
	競技に偏重し学業に対する意識が低い学生	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の理解醸成 学業機会の確保 	学業と競技の両立のための指導者セミナーを開催	指導者向けライセンス制度導入(既存制度の活用を想定)	プラットフォームを活用した大学と指導者のマッチング機能の整備
	学業・競技への意識が高く双方に取り組める環境がある学生	表彰制度等で学業・競技を一層伸ばす取組を創設する	年間取得単位数の基準を策定	各大学での取組状況の把握・共有等 学業と競技の両立の重要性についての保護者や高校向けのセミナーを開催	取組状況を踏まえた更なる対応
卒業後	アスリート就職	セカンドキャリアを見据えた教育の提供	学業・競技・地域貢献の両立(3立)が重要であることの発信 各大学のベストプラクティスの収集・共有	学業成績や地域貢献に対する表彰制度を実施	表彰制度に奨学金等の報奨制度を付与
	一般就職	企業とのマッチングや情報提供	大学キャリアセンターとの連携で提供すべきサービスを具体化していく	セカンドキャリアを見据えたキャリアデザインの作成等の支援 リーダーシップ開発プログラムの提供	OBOGの就職実績や就業後の活躍の企業への発信・PR

日本版NCAA創設により達成すべきゴール

学生アスリートが競技活動に偏重せず、競技成績・学業ともに伸ばしていくことができる環境の整備

今年度の検討テーマ

- ①日本版NCAA加盟大学の学生アスリートの学業基準や、大学や学連等の関係者が適切に情報を把握できる仕組みを提案する
- ②モチベーション向上のため、学生アスリートの表彰制度を提案する

学業充実 テーマ④

キャリア支援

大阪体育大学 スポーツ局 統括ディレクター
浦久保 和哉 氏(主査代理)

学業充実④キャリア支援

これまでのキャリア支援

- 「キャリア教育」とは社会的・職業的な自立を目指した人としての総合的能力の育成を促すことである。

- 「セカンドキャリア→デュアルキャリア」

これまでは、「競技者」としての人生を終えてから「人」としての人生を歩む「セカンドキャリア」の考えが主流であったが、「人」としての人生を歩みながら「競技者」としての人生を歩む「デュアルキャリア」の考えが重要視されている。また、「デュアルキャリア」の対象となる期間は、一般に10代半ば～30代前半までと定義されており、アスリートのフルタイム化も要因とされている。

- 「教育再生実行会議」第六次提言（平成27年3月6日）

国がアスリートの「デュアルキャリア」の意識啓発や引退後のキャリア形成、それら支援を一元的に実施できる体制構築への取り組みが盛り込まれた。

課題

- ✓ 現状は、大学の一般的なキャリアサービスや就職斡旋項目に留まっており、アスリートに特化した支援が手薄ではないか？
- ✓ アスリートの学業上の柔軟性の確保や競技団体とのスケジュール調整に関して体系的に行う仕組みや制度が整備されていないのではないか？
- ✓ アスリートのニーズに合わせて、きめ細かい交渉・調整を担うアドバイザー機能も必要ではないか？

独立行政法人日本スポーツ振興センター「キャリアデザイン形成支援プログラム」における「スポーツキャリア形成支援体制の整備に関する実践研究」から抜粋

学業充実④キャリア支援

作業部会(キャリア支援)の設計(案)

短期(本年度)目標

大学のキャリアセンターにおけるアスリート向け支援ガイドラインの検討と策定、並びに支援ガイドライン関連セミナーの企画

アスリートキャリア支援に関する調査を通して、現状を把握する

＜主な調査内容＞

- 「キャリア支援」に関する部署の体制と学内での位置づけ
- 「アスリート」を対象とした取り組み、人員配置の有無
- 日本版NCAAに期待する機能(キャリア支援)
- 民間企業が展開している体育・スポーツ系学生に対する就職支援事業の内容を把握

成果物

アスリートキャリアサポートガイドライン

- ・アスリートのキャリア形成の目的
- ・アスリートスパンモデル
- ・アスリートキャリア支援の対象領域
- ・アスリートに求める人物像・資質・能力
- ・アスリートの「強み」「弱み」の抽出
- ・支援プログラム

平成31年度のセミナー開催計画

- ・実施時期・場所の調整
- ・講師の選定
- ・テーマの決定

安全安心・医科学 テーマ⑤ 事故情報の集約化

日本臨床スポーツ医学会 理事長
川原 貴 氏

目的

事故や事件の情報を収集し、関係者との共有を促進することで、実態に即した予防対策の充実を目指す。

短期目標

- 報告すべき事故の範囲を決定し、事故報告書のフォーマットを作成する
- 事故情報の収集経路を確保するとともに、収集した情報を管理する体制を構築する

中長期目標

- 集約された情報が適切な団体や研究機関に共有される仕組みを構築する
- 収集した情報が、予防及び事後の対処にかかる各種ガイドラインに反映されるようにする

目的

すべての学生選手が適切な保険に加入し、安心してスポーツに取り組めるような環境を整備する。

短期目標

- 保険の加入状況や保険未適用の事例等を調査する
- 保険加入促進のための対策案及び制度案の検討を実施する
- 調査結果を分析し、日本版NCAAとして必要な安心対策を検討する

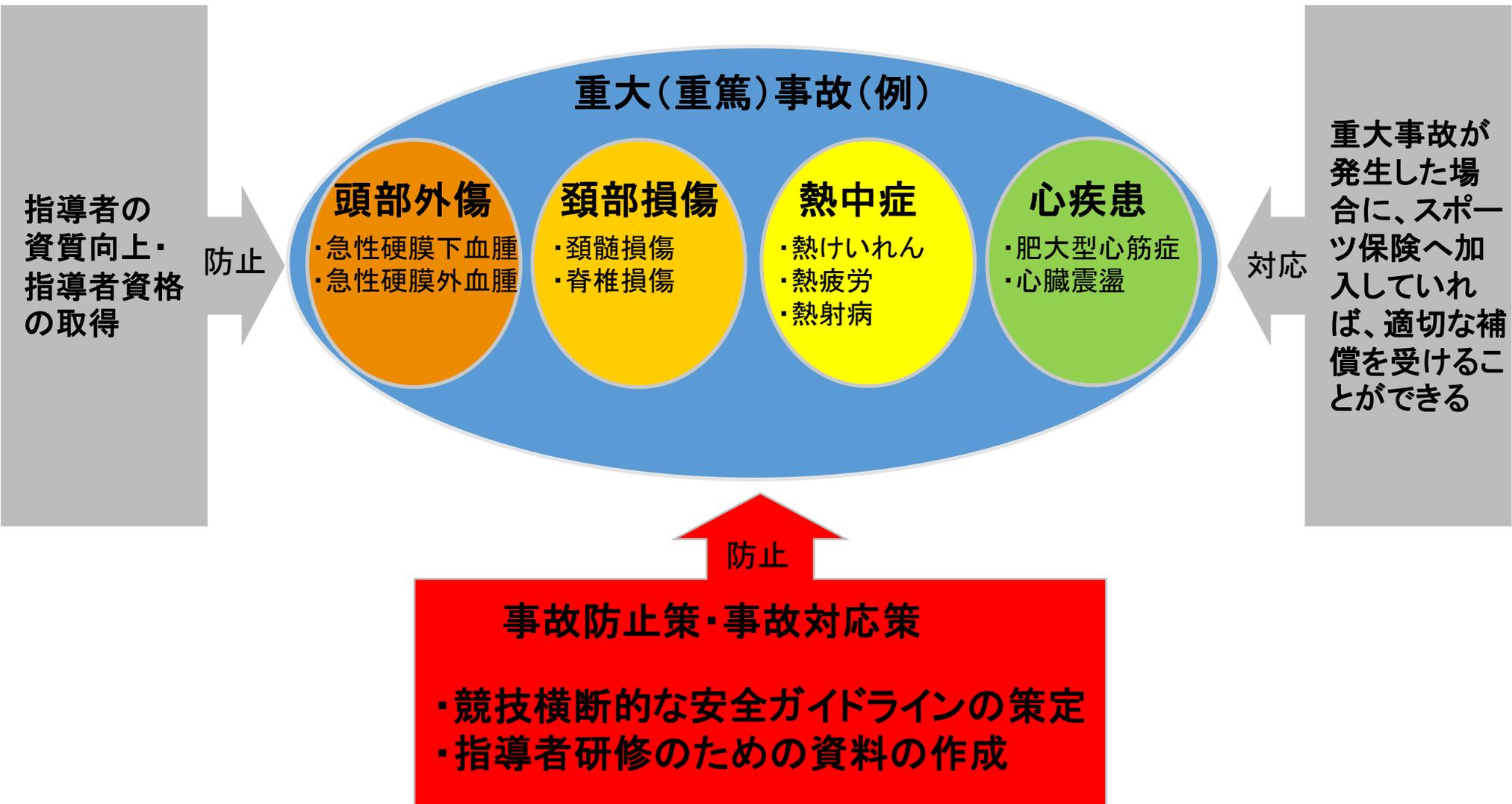
中長期目標

- 日本版NCAAとして必要と判断された安心対策については、実態を考慮した実現可能な制度作りを進める

安全安心・医科学 テーマ⑥ 共通ルールの設定

全日本学生柔道連盟 理事
三宅 仁 氏

安全安心・医科学分野 テーマ⑥ 安全に関するガイドライン



安全安心・医科学 テーマ⑦
ガバナンスの体制構築、ハラスメントや
暴力等に関する相談・対応体制の構築

日本安全教育学会 理事
戸田 芳雄 氏

検討内容 相談窓口の運営体制を構築し、各大学や学連の既存の窓口との連携や問題解決プロセス等を検討する

- ① 日本版NCAAとして対処すべき事案の判断基準等を、どう設定するか
対象とする相談者の範囲は限定するのか(学生、保護者、指導者・コーチ、大学等関係者その他等)。対象とする相談の内容・種別をどのように選別するか(相談の内容は学生自身の問題、学生間の問題、指導者・指導内容等の問題、部活動運営等の問題、大学のガバナンスの問題、学生の進路、学業の問題等々多岐にわたると考えられるが、一方で単なるクレーム、虚偽等のケースも想定される)。
- ② 日本版NCAAと大学、学連等との連携をどのように行なうか
通常、問題の把握、問題の解決は、該当する大学、学連等が主体的に行なうべき。相談窓口を機能させるためには日本版NCAAの役割の明確化と大学、学連等との連携方法等の検討が重要。
- ③ 担当者の選定、対応マニュアルの整備や個人情報等の管理をどうするか
問題の内容によって、ふさわしい対応者の専門性が異なってくるため、一般の職員や臨床心理士等によって支援可能な範囲を把握し、担当者を選定する必要がある。また、既存の相談機関等との連携の可否、相談者の認定、クレームや嫌がらせの判断、個人情報等の管理やプライバシー保護等のためのマニュアルを定める必要がある。

検討内容 コンプライアンスに関するガイドラインを収集・分析し、日本版NCAAに加盟する団体が順守(遵守)すべき内容等を検討する

- ① どのようなガイドラインを作成する必要があるか
各大学が公表しているコンプライアンスに関するガイドラインを収集・分析し、ハラスメントの防止、部活動の適切な実施・運営等に関して、日本版NCAAとしてのガイドライン作成が必要。
- ② 関係者への研修の実施と研修資料の作成をどのようにするか
関係する団体や研究機関、学識経験者等の協力を得て、ガイドラインを周知徹底するための研修資料を作成し、研修会を実施することが必要。
- ③ 重大なコンプライアンス違反が発生したときに、加盟する団体をどのように支援するか
将来的には、加盟する団体に重大なコンプライアンス違反が発生し、検証が必要な事態に至った際に、速やかな人選等ができるよう人材バンク等を整備しておくことが必要。また、速やかな解決や再発防止のため、迅速な検証の要請や概要等の報告を求めることが必要。

なお、法的根拠がなく、強制力もない組織としては、学生アスリートの充実した大学生活と大学スポーツの健全な発展を目指すという理念の共有が必要であり、コンプライアンスに限らない、全体の「大学スポーツ憲章(仮称)」を策定してはどうか。

安全安心・医科学 テーマ⑧

指導者研修

筑波大学 アスレチックデパートメント
スポーツ・アドミニストレーター
佐藤 壮二郎 氏

コンプライアンス、安全・安心の徹底、学業充実のいずれもが
「個々の大学」「個々の種目」
多くの場合「個々の指導者」に依存している。

日本版N C A Aの創設に伴い「研修プログラム」を通じて
「大学や種目を越えた」
共通認識と安全・安心な活動を創り上げていく。

日本版N C A Aの研修プログラム

加盟大学の意志で育てていく

【適切な仕組みを検討し、構築していく】

- ・ 集合研修
- ・ eラーニング
- ・ 映像などプログラムの配信

また、今後発生する様々な事例に対して
再発防止のための協議や方針づくりを行い、
研修に組み込む仕組みを構築する。

個人の指導者ではなく
『日本版N C A A』
としての共通認識と
安全・安心な活動へ

事業・マーケティング テーマ⑨ 大会レギュレーションの整備

スポーツ庁 参与
池田 純

日本版NCAAによる大会企画案・今後の検討テーマ案(ver1.0)

実現可能性や実現までに要する検討期間を考慮し、今年度は「競技横断的の大学対抗戦」の開催に向けた調査・企画を最優先に実施していくと共に、既存・新規大会の主催・共催・運営支援に係る企画案の整理も行う。

大会企画・テーマ(案)	想定する企画内容・狙い	実現可能性 (タイムライン)	理念への 寄与	新規性 話題性	既存枠組と の調整
① 競技横断的の大学対抗戦 (ポイント制)の開催	<ul style="list-style-type: none"> 各競技の既存大会における競技成績に応じてポイントを付与し、各大学が獲得した年間総合ポイントに基づき表彰を実施(BUCS方式) 年間の表彰式においては、競技成績以外にも、日本版NCAAの理念の実現への貢献に従った各種表彰を実施することを想定 	A	A	B	A
② 大会の主催/共催 (NCAA CUPなど)					
➢ 既存大会	<ul style="list-style-type: none"> 各競技のうち①以外の大会を対象とした共催・運営支援 <ul style="list-style-type: none"> 日本版NCAAによる関与・支援による既存大会の更なる活性化支援 	B	A	B	A
➢ 新規大会	<ul style="list-style-type: none"> 海外大学とのチャンピオンシップ・対抗戦の主催/共催 <ul style="list-style-type: none"> 新たな人気イベントの創出、国際化の推進、競技レベルの向上 東・西大学選抜チーム対抗戦の主催/共催 <ul style="list-style-type: none"> 新たな対決の構図づくりによる既存大会以外の人気イベントの創出 競技レベルに応じた全国大会の主催/共催 <ul style="list-style-type: none"> 各競技におけるトップレベル以外の大学・リーグの盛り上げ 	C	A	A	C
		C	A	A	C
		C	A	A	C

※ **実現可能性**: A=日本版NCAA設立当初もしくは設立1年後程度での実現が想定されるもの、B=日本版NCAA設立後1~3年程度での実現が想定されるもの、C=日本版NCAA設立後2,3年以上の検討・調整期間を要することが見込まれるもの

※ **理念への寄与**: A=理念への寄与が高いもの、B=理念への寄与が中程度のもの、C=理念への寄与が低いもの

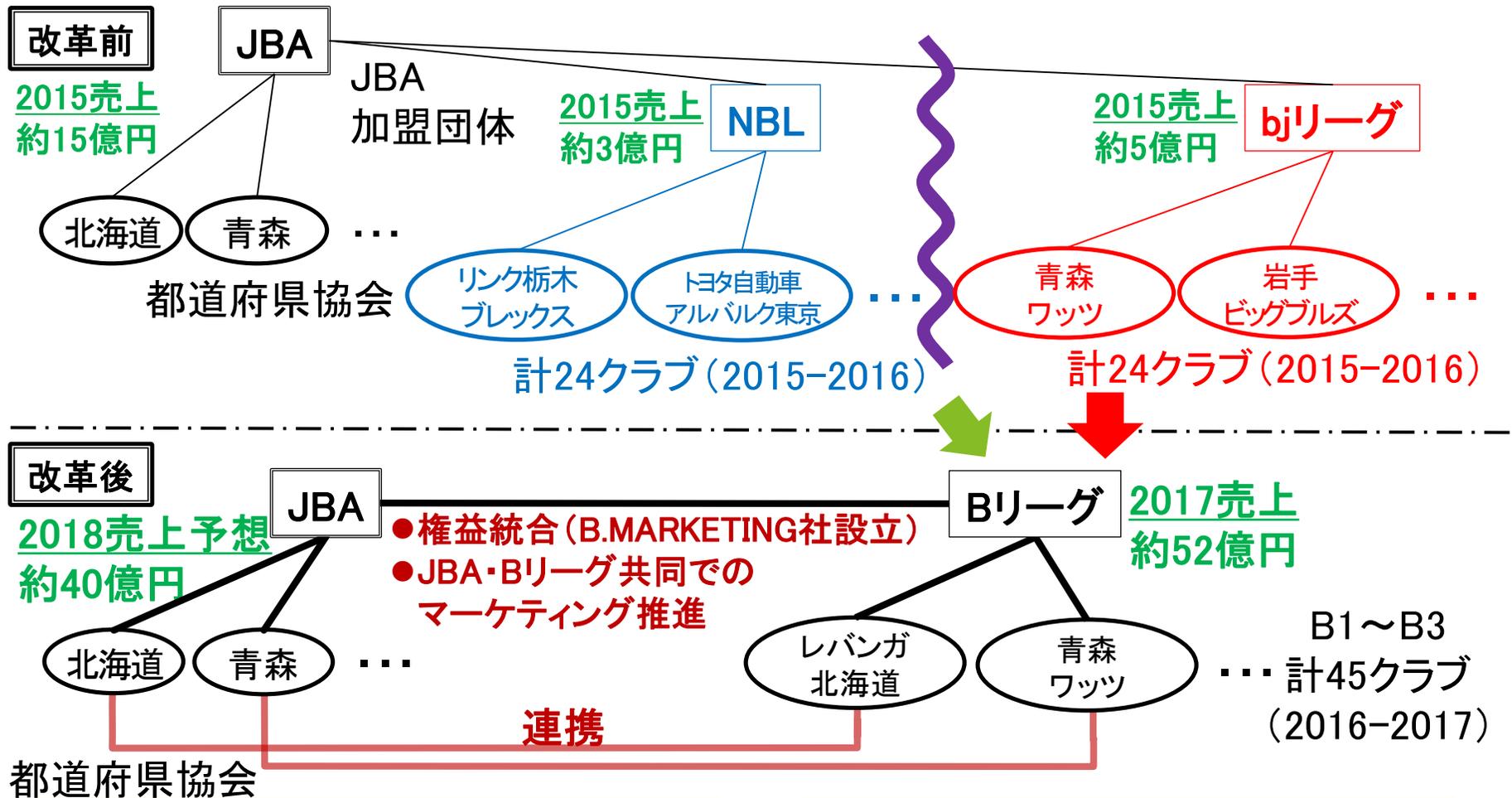
※ **新規性・話題性**: A=新規性、話題性が高いもの、B=新規性、話題性が中程度のもの、C=新規性、話題性が低いもの

※ **既存枠組との調整**: A=見通し確度が高いもの、B=見通し確度が中程度のもの、C=見通し確度が低いもの

事業・マーケティング テーマ⑩ 個別データの管理・活用

東京大学 理事
境田 正樹 氏

JBA・男子プロバスケットボールリーグの改革モデル



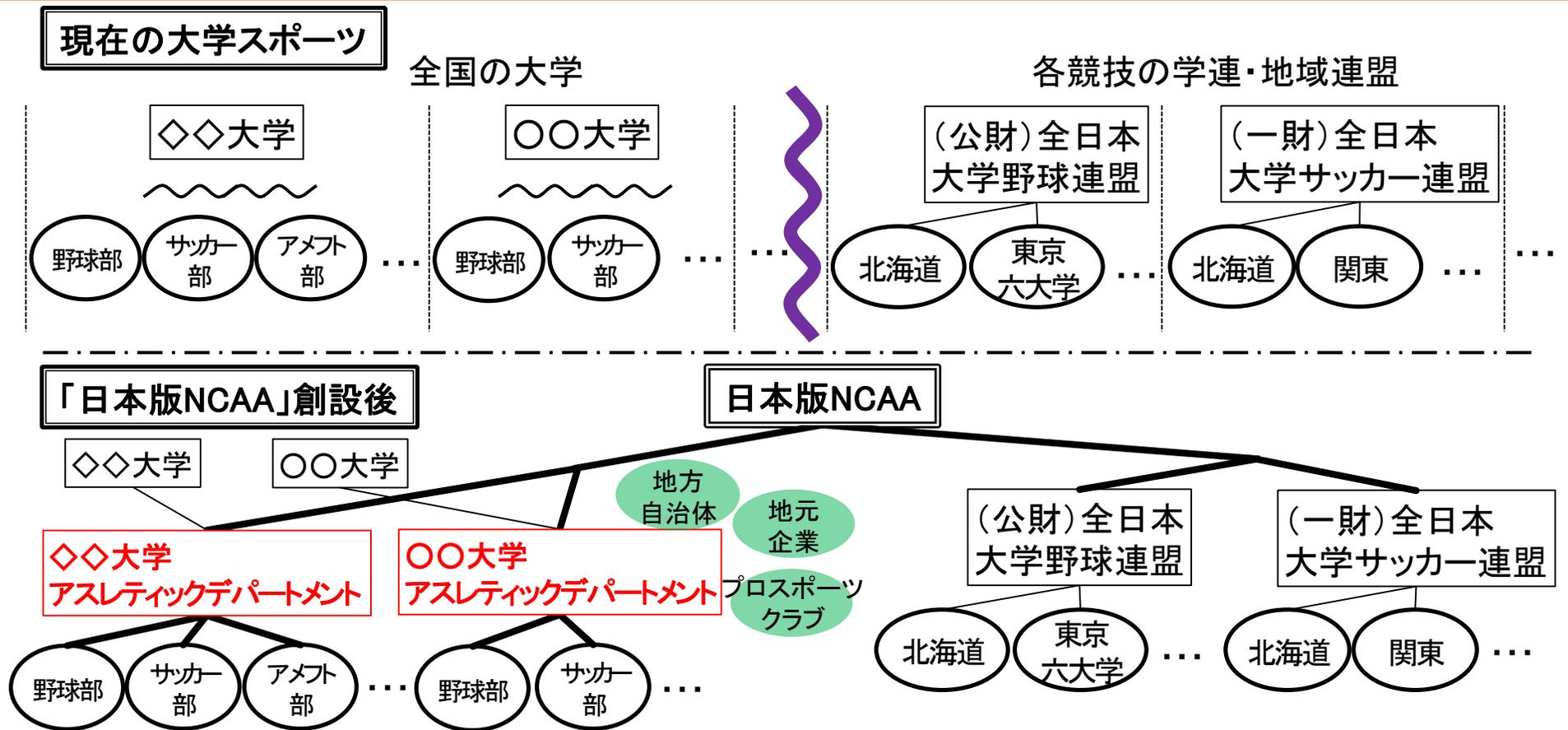
改革のポイント(JBA)

- JBA競技登録者62万人データ利活用推進
- 都道府県協会の法人化・ガバナンス改革
- JBAによる都道府県協会のマネジメント支援
- Bリーグとの権益統合によりバスケット界全体の価値向上
- 各都道府県協会とBリーグ各クラブとの緊密な連携

改革のポイント(Bリーグ)

- リーグ・クラブによる顧客データの共同利活用
- デジタルマーケティング推進 (オンラインチケット販売・デジタルコンテンツ配信)
- JBAとの権益統合によりバスケット界全体の価値向上
- リーグによるクラブへのマネジメント支援

日本版NCAA創設・大学スポーツ改革のモデル案



改革のポイント

- 大学スポーツに関連する各種権利の管理体制整理。試合放送数と観客、視聴者数の拡大。
- データ利用につき同意を得た登録済学生や観客・視聴者等のデータ等の一括管理、及びそれらデータに基づくデジタルコンテンツ、サービスの開発及び提供。デジタルマーケティングの推進により大学スポーツ市場規模の拡大。
- 日本版NCAAによる各大学アスレティック部門と各学連へのマネジメント支援、シェアードサービスの提供。
- 地域毎に大学、地方自治体、地元企業、プロスポーツクラブ(Jリーグ・Bリーグ等想定)との間で地方創成の拠点構築。
- SINET(全国850大学等を100Gbpsの超高速通信速度でつなぐセキュアな学術情報ネットワーク)の有効活用。
- 知識集約型社会(Society5.0)に向け、ビッグデータ及びデジタル技術等を元に、日本版NCAAが中核的な役割を担う。

事業・マーケティング テーマ①①

シェアードサービスの提供

江戸川大学 社会学部経営社会学科 教授
小林 至 氏

【日本版NCAA】 事業・マーケティング・シェアードサービスの提供

【日本版NCAA設立にあたり、シェアードサービスに求められるもの】

関係者(加盟大学、学連等)のニーズ

- ・多くの方に応援してもらいたい
⇒ 情報発信/映像配信など
- ・しかし、手間はかけられない
⇒ チケットの販売の手間/財務管理の手間の軽減など
- ・活動資金の充実を図りたい
⇒ 興行収入、寄付の獲得など

一般(一般学生、OB、保護者、地域など)のニーズ

- ・大学スポーツに関する情報(試合情報を含む)を取得したい
⇒ 各大学情報/カレンダー/映像配信/記事コンテンツなど
- ・直接体験したい
⇒ チケット/コマースなど
- ・大学スポーツを支援したい
⇒ 寄付など

カレッジアイデンティティの醸成、コミュニティ活性化

【シェアードサービスを構築するにあたり考慮すべきポイント】

- | | |
|------------------------|-----------------------------------|
| (1) 大学スポーツの市場が広がること | ⇒ 魅力発信/ファン拡大/スポンサーメリット増加/社会的信用の向上 |
| (2) 加盟大学・学連等の負担軽減に繋がるか | ⇒ チケットの販売/各種サポートツールの提供 |
| (3) 事業収益に繋がるか | ⇒ 設備投資費用/スポンサー選定/収益化 |

【段階的なシェアードサービス立ち上げ】

第1次展開

【情報発信機能】

- ・映像配信
- ・記事配信
- ・カレンダー
- ・大会情報発信

第二次展開

【決済機能】

- ・ID管理
- ・コマース
- ・チケット
- ・寄付

第三次展開

【サポート機能】

- ・eラーニングツール
- ・財務/法務相談窓口ツール
- ・体調管理ツール

事業・マーケティング テーマ⑫
大学SA支援、マーケティング・会計
ルールに関するガイドライン整備

日本体育大学 アスレティックデパートメント長補佐
佐野 昌行 氏

《内 容》

目標や方向性の提示、事例の紹介等によって、大学におけるスポーツ部局の設置およびスポーツ・アドミニストレーターの配置を後押しする。

《策定事項(案)》

○スポーツ部局の設置に関する指標

- ・スポーツ部局に求められる役割
- ・アンケートにみる各大学スポーツ部局の設置形態、教職員数
- ・(もしあれば)日本版NCAA加盟に際して必ず整えなければならない条件

○大学スポーツ・アドミニストレーターの配置に関する指標

- ・大学スポーツ・アドミニストレーターに求められる役割、資質・能力・知識等
- ・アンケートにみる各大学スポーツ・アドミニストレーターの配置人数、職域
- ・大学スポーツ・アドミニストレーターにおける職域の設定の仕方によるメリットとデメリット

○マーケティングに関する指標

- ・寄附・スポンサー等外部資金の受け方の紹介、メリットとデメリット

○会計ルールに関する指標

- ・会計ルール統一・会計監査を実施している大学の事例紹介、課題等

事業・マーケティング テーマ⑬
広報戦略の策定・展開

桜美林大学 スポーツ推進センター部長
尾崎 幹男 氏

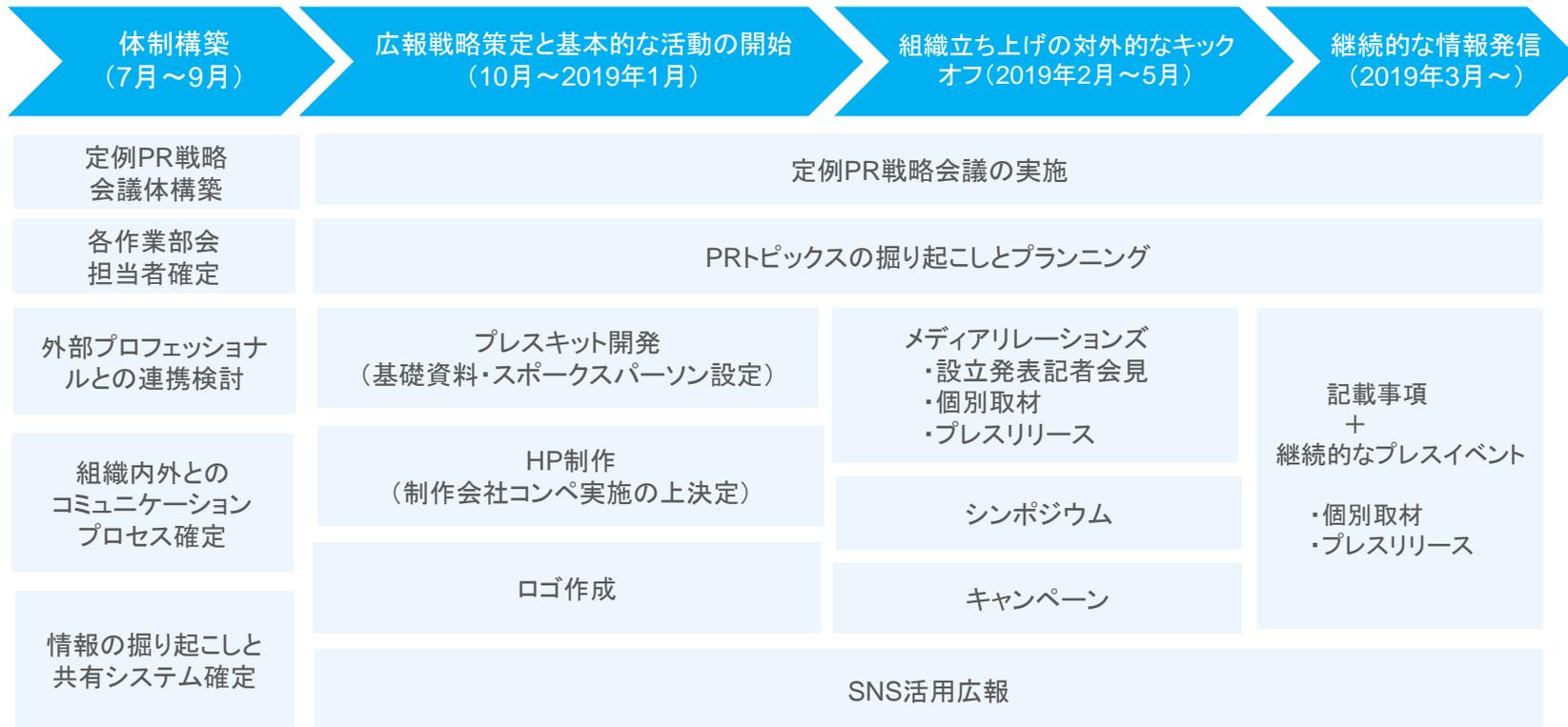
日本版NCAA広報戦略概要

広報作業部会の目標

- 日本版NCAA設立に向けて認知のすそ野を広げていく。
- 日本版NCAAの存在意義および社会的価値を広く啓蒙していく。
- 日本版NCAAと既存の組織や機関が良好な関係を構築しやすい外部環境を整備する。

実現に向けて

- 人員リソースが限られた中、組織内と必要に応じた外部との連携を密に行い、継続的に広報戦略と施策を立案し、展開できる体制を構築する。
- 日本版NCAA設立のタイミングで認知の垂直立ち上げと効果を最大化するプレスイベントを開催する。
- 大学スポーツらしい要素を包含しながら、ソーシャルメディアも含めた継続的な情報発信を行う。



目標
達成

事業・マーケティング テーマ⑭
スポンサープログラム及び賛助制度
の策定

仙台大学 体育学部 教授
池田 敦司 氏

スポンサー・賛助会員の権利区分（案）

スポンサーに対する特典の区分け案として以下を想定しています。
 賛助会員に対する特典としては、団体名の露出及び情報提供を予定しています。

賛助会員

オフィシャルパートナー

プログラム
パートナー

区分	権利の内容	具体例
基本権利	団体名露出(1)	<ul style="list-style-type: none"> 日本版NCAAホームページ・団体概要紹介資料にて社名告知 日本版NCAAが作成するガイドライン等に謝辞として社名を記載
	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 日本版NCAAが主催するイベントやセミナーのご案内
	団体名露出(2)	<ul style="list-style-type: none"> 日本版NCAAが関与する大会会場にて社名告知
	呼称商標使用	<ul style="list-style-type: none"> 「日本版NCAA(仮称)を支援しています」「日本版NCAA(仮称)のオフィシャルパートナーです」等のキャッチフレーズの使用 日本版NCAAのロゴ、ペットマークの使用 スポンサーの商品への日本版NCAA商標の使用
	無料観戦	<ul style="list-style-type: none"> 日本版NCAAの指定試合への無料観戦権
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 日本版NCAAの会員組織構成員(加盟大学の運動部活動の代表者等を想定)へのインフォメーション発信
選択権利	命名権	<ul style="list-style-type: none"> 大会・リーグ・カンファレンス名称 個別プログラム名称(安全安心・学業充実関連等)
	販促展開	<ul style="list-style-type: none"> ゲームスポンサー 販促イベント、サンプリング

事業・マーケティング テーマ⑮

組織整備

スポーツ庁 参与
木藤 友規

組織整備のタスクとスケジュール

タスク		2018年						2019年		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
組織整備と 事業計画に 関する作業	基本構想の検討 (目的、事業内容等)	▶								
	組織体制の検討	▶								
	各種規程の検討 (入会、退会等)			▶						
	事業計画の検討						▶			
法人設立に 関する手続き	法人設立事務 (定款作成、登記等)	▶					★	▶		
	設立後の手続き (各種届出等)								▶	

定款原案は早期着手

必要なものは
検討継続

設立準備委員会へ

【作業方針】

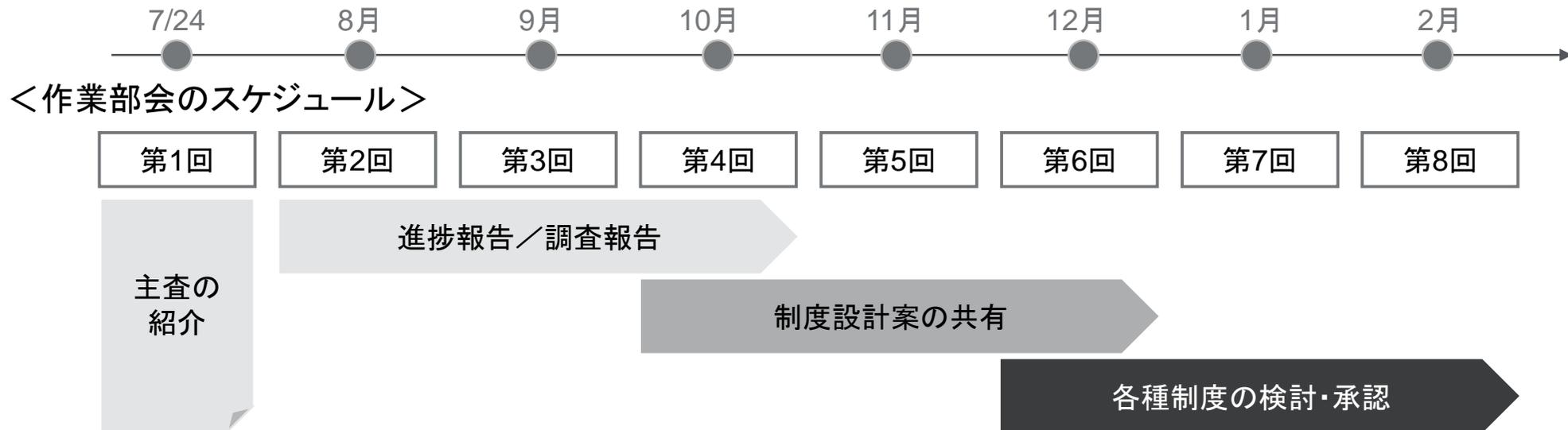
- 各作業部会の原案に沿って適切な組織整備を検討する。
- 法人設立に必要な作業に加えて、設立時までに期待される必要最低限の規程等も検討する。
- 設立趣意書及び理念(定款の目的)等については、これまでの答申等を踏まえた原案を早い段階で作業部会へ提示する。

議事(3)

今後のスケジュールについて

今後のスケジュール

8月以降は作業部会の毎月開催を想定しています。第2回～第4回では、進捗・調査結果の報告、第4回～第6回では制度設計案共有、第6回～第8回では各種制度検討・承認といったアジェンダを予定しています。



＜報告様式＞

日本版NCAA作業部会 テーマ別報告用紙	
テーマ	【学業①】入学前からの動機づけ
報告内容	
検討内容	① XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX
認識された課題	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX
法人・他テーマへの申し送り事項	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX
次回報告予定事項	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX

1. 日本版NCAA入学前からの動機づけ

日本版NCAA作業部会 テーマ別報告用紙	
テーマ	【安全①】情報の集約化
報告内容	
検討内容	① XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX
認識された課題	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX
法人・他テーマへの申し送り事項	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX
次回報告予定事項	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX

3. 安全①情報の集約化

日本版NCAA作業部会 テーマ別報告用紙	
テーマ	【事業①】大会レギュレーションの整備
報告内容	
検討内容	① XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXX
認識された課題	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX
法人・他テーマへの申し送り事項	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX
次回報告予定事項	① XXXXXXXXXXXX ② XXXXXXXXXXXX ③ XXXXXXXXXXXX

5. 事業①大会レギュレーションの整備

